

地域における生活支援・ 介護予防サービスの担い手を作る



NPO法人たすけあいサポートアイアイ 代表理事 **岩橋 百合**

■生活支援コーディネーターという仕事

2016年10月から千葉市に生活支援コーディネーター（以降S Cという）という職種ができました。2015年の介護保険の改正により全国の市町村に設置されることになったもので、その目的は、地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取組を推進する、とされています。その背景としては高齢化が進む中で、介護保険財政の逼迫、介護の専門職の人手不足があります。

S Cの活動は、地域の福祉資源を把握し、住民のニーズを調査し、必要な福祉資源を創出することです。具体的には要介護にならないように体力づくりのできる場所を増やすこと、認知症予防のためにも、いつでも立ち寄っておしゃべりができる居場所を作ること、ごみ捨てや買い物支援、通院支援などができるようなグループを立ち上げ、安心して暮らし続けられる地域を目指すものです。そのようなささえあい活動に参加することも高齢者の健康や生きがいにつながるといわれています。

全国的には社会福祉協議会（以下社協という）がS Cを受託するケースが多いのですが、千葉市ではプロポーザルで選定されたため、株式会社あり、NPOあり、福祉法人あり、社会福祉協議会ありとバラエティに富んでいます。それらの事務所が責任をもってS Cを選任、2017年4月からは

図表1 千葉市美浜区の位置



各区2人となりました。

私は2008年、美浜区で6人の仲間たちとNPO法人たすけあいサポートアイアイを始めました。介護保険外の生活支援と階段昇降サポートでスタートしましたが、3年目からは福祉有償運送を始め、そのためにNPO法人を取得しました。階段昇降サポートはアイアイの象徴的な事業であり、美浜区ならではのニーズに対応したサポートです。5階建て中層の住宅が多い美浜区で2008年には年間100回だった階段昇降サポートは10年目の2017年には520回、18年度は700回に迫る見込みです。S C活動は地元密着の私たちのような団体がふさわしいのではないか、という思いから応募

しました。

ＳＣの３年間の活動は研修、地域資源調査、サービスの立ち上げへと進んできました。研修後は福祉資源の調査が主な業務でした。社協地区部会や民生委員、自治会、住民有志が立ち上げたサロンやカフェ、老人クラブ、体操教室、歩こう会、など

いろいろな団体を訪ねて活動に参加し、困りごとや新しいニーズについても話を聞きました。集まった情報は千葉県介護サービス情報公表システム（図表２）に掲載しました。また各区の「高齢者のための生き生き活動マップ」（図表３）にまとめました。翌年にかけては家事支援、外出支援、日用品・弁当の宅配、見守り・安否確認などの生活支援サービスを調査、

全市版「生活支援活用ガイド」（図表４）を作成しました。それらはあんしんケアセンターや区役所に置かれ、必要な方に配布されています。

また、美浜区ＳＣの独自活動としては地域包括ケアについての３回連続シンポジウム「美浜区大高齢時代」を開きました。具体的なささえあいのイメージをつかんでもらうために、すでに先行していたたすけあいや見守りをやっている住民グループ１０団体の活動を報告していただきました。３回目にはグループ討議を行い住民のニーズなどについて話し合いました。このグループから一つでもささえあい活動が生まれてほしいと企画したものでしたが、そう簡単ではありませんでした。

図表２ 厚生労働省の介護事業所・生活関連情報検索サイト
(<http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>)



■美浜区でのサービスの立ち上げ

美浜区は海浜の埋め立てにより作られた地域であり、千葉県や首都圏から同世代の家族（主に若い夫婦と子どもの世帯）が移り住みました。団塊世代の街でもあります。それから40年がたち、当然のことながら一気に高齢化が進んでいます。また、特徴としてはエレベーターのない５階建ての

図表３ 高齢者のためのいきいき活動マップ



図表４ 生活支援サービス活用ガイド



いわゆる団地による街づくりが行われたため、私たちがたすけあいサポートアイアイを始めた2008年ごろの調査では、住民の約4割がそのような住宅に住んでおり、すでに自力で階段昇降ができない方々が出始めていました。

住民の気風としては、新しい街であり、自由でしがらみがない一方、千葉都民といわれ、ふるさと意識は希薄であったと思います。その後、コミュニティの醸成もすすみ、高齢化が進んだことで、住民同士の支えあいの必要性についての認識も高まってきました。NPOによる助け合いも開始。磯辺では住民による見守り活動、真砂、幸町1丁目ではごみ捨てや家事援助など生活支援の仕組みが作られました。

2005年の介護保険改正で導入が決まったあんしんケアセンター（全国的には地域包括支援センターと呼ばれている）が人口に応じて配置され、高齢者の相談窓口としての機能を発揮するようになりました。美浜区では4つのセンターが置かれ、それぞれ地域の特性に応じた活動を行っています。その活動にもSCとしてさまざまに連携しています。

この間立ち上げたサービスを次に掲げたいと思います。

〔SCが深くかかわったもの〕

1. 幸町2丁目階段昇降機による地域ささえあい準備会

幸町2丁目連携会議の中でアイアイの階段昇降機サポートについて説明した際、メンバーの一人である中央診療所所長から、「それこそ、幸町団地で今、必要とされているものだ」との声がかかり、階段昇降プロジェクト（UR、中央診療所、自治会、アイアイ、市・区）が立ち上がりました。何回もPJ会議を行う中で2018年2月から階段昇降機による地域支えあい準備

会を立ち上げ、実際の階段昇降サポートが始まりました。現在までに操作者の養成講座を3回行い、講座修了者のための研修会も催し、ボランティアの組織化、ルール作りを進めています。

2. 美浜区カフェでつながる協議会の立ち上げ

認知症カフェの主催者でもあったSCの声かけで美浜区のコミュニティカフェ同士が連携する団体を立ち上げました。その後カフェマップ作製、カフェ主催者の懇談会が実施できました。

3. シニアリーダー体操1か所 カフェ1か所

民間マンションにおいて、シニアリーダー体操を開始、また、集会所を利用した、だれでも参加できるカフェを立ち上げました。

〔他の組織とともに立ち上げに協力したもの（現在働きかけ中のものも含む）〕

1. 幕張西社協地区部会による見守り
2. 磯辺の地域運営委員会によるささえあい活動（準備会への参加）
3. 打瀬ベイトウンカフェ
4. イオン・カスミなどのフリースペースを使った体操などのイベント、相談会など
5. 美浜区で3番目に高齢化が進んでいる高浜5丁目にあんしん磯辺と共に働きかけ、自治会のご協力で現在支え合いに関するアンケート実施中、その結果がまとまり次第、福祉ミニフォーラムのようなイベントを企画中*
6. あんしん高洲と共に中国語ボランティアのグループ化を模索、協力者になってくれる方に声掛け*

〔千葉市SCの情報収集により地域包括ケア推進課が作った発行物〕

「高齢者のための生き生き活動マップ」各区版、全市版「生活支援活用ガイド」

〔美浜区SCとして独自に作った発行物〕

1. ささえあい通信1～3号（美浜区各所で元気に活動している団体を取り上げました）
2. 美浜区コミュニティカフェマップ『みんなの居場所』*（図表5）
3. 幸町2丁目体操マップ
4. 入院時に緊急に必要なもののリーフレット

〔他の組織とともに作った発行物〕

1. 磯辺健康福祉ガイドブック（地域福祉テーブルとともに）*（図表6）
2. 見守りのあるまち磯辺（磯辺見守り協力員ネットワークとともに）*

以上のように活動してきましたが、SCが関わって立ち上げたサービスはさほど多くはありません。この間にも磯辺では地域運営委員会の下、8つの自治会でささえあいが準備され、稲毛海岸でも3丁目団地で稲三サポートの会が、幸町1丁目に学んで立ち上がるなど、自主的な動きがみられます。美浜区らしい素晴らしいことだと思います。

図表5
美浜区コミュニティカフェ
マップ『みんなの居場所』



図表6
磯辺健康福祉ガイドブック



■今後の課題

SCの活動は街づくりであると感じています。美浜区では高齢化率50%を超える地域が3か所になりました。区内では、自主的にささえあい体制を作っていく地域がある一方で、住民の移動が多くコミュニティが育ちにくい地域もあります。URなど独居の高齢者が多い地域では必要性は高いのですが、高齢者自身による支えあいの仕組みづくりは非常にむづかしいという現状があります。

地域によっては、自治会がなかったり、自治会が機能していない地域もあり、そういうところで地域の支えあいを作っていくのは至難の業です。自治会の価値を再発見する思いです。むづかしいけれども自治会を新たに作っていくのも一つの方法で、中央区の新しいマンションでそれをやった所もあります。老人クラブも数が減っていますが、いくつかの活発な老人クラブを見ると街づくりへの有効性が感じられます。

住民同士をつないでいくことが重要で、その活動は必ずしも福祉的なものでなくてもよい、と思

います。例えば、運動や音楽、遊び、趣味でつながる、祭りや餅つきでつながる、お茶会でつながる、さまざまなつながりがあんしんの街づくりには有効であり、『見守り』とか『助け合い』と掲げなくてもご近所さんや知り合いが増えることが自然な見守りにつながると感じています。

千葉市の6区ではSCがそれぞれの区の状況に応じて活動しています。シニアリーダー体操の立ち上げを

意欲的にやっている区もありますし、区の支えあい団体の連絡会を立ち上げようとしている区もあります。中央区では今年からこれまでの一層のSC（区全体を活動範囲とする）に加え、あんしんケアセンター圏域に1か所ずつ、2層のSCが置かれました。その成果を見ながら順次ほかの区でも2層のSCが置かれていく方向です。美浜区らしく、この2層SCについても、NPOや市民団体がプロポーザルに応募してほしいものだと思います。

住民のささえあい組織があれば何でも解決というものではありません。ベースとしては法律に基づく介護や福祉の仕組みが整備され、福祉で働く人の待遇が良くなり、市役所、福祉事務所、介護事業所や、介護施設、病院などが連携してしっかりと役割を果たしてもらわなければなりません。それらを利用する時期が少しでも遅くなり、なるべく長く住み慣れた地域で暮らすことができるように住民による互助の体制づくりが必要だと思います。自分の住む地域を見回してそんなサポートが足りない、何かやりたい、と感じたら、どうぞ、生活支援コー



福祉協力員カラオケ会



フレンドカフェクリスマス会

ディネーターにご連絡ください。よろしくお願いします。

＊マップ、ガイドブックなどは配布が進み、残部がなくなったものもあります

NPO法人 たすけあいサポートアイアイ

〒261-0012 千葉市美浜区磯辺1-9-18
 電話・Fax 043-277-2852
 電話受付 (月)～(金) 10:00～16:00
 土日祝日・年末年始・お盆はお休み
 Eメール: aiai@support.email.ne.jp
 ホームページ: <http://tasukeaiai.com/>